

# INAHO FARM 通信 2025 年 1 月

新年あけましておめでとうございます。

牧場ではもちろん年末年始休むことなく、毎朝搾乳も乳製品の製造も行ういつもと変わらない日常を過ごしています。こうした日常を営むことができていることに、常日頃関わって下さっている人・牛たちに改めて感謝し、また新たな気持ちで新年を迎えています。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

## <2024/1/1 現在の飼養頭数>

### ○ジャージー種 11 頭：

搾乳牛 5 頭（アイナ、アユ、チッチ、デイゴ、シュギモー）

乾乳牛 2 頭（エマ、リンリン、アコ）

育成牛 2 頭（伊予、ベル）

雄子牛 1 頭（大福）

### ○交雑種（ジャージー種×黒毛和種）3 頭：

（バンシルー、シュリ、タッチ）

## ・輸入乾草給与を始めました。

今年は 12 月前半から、足りない草の補填として朝の給餌の際に輸入乾草の給与も始めました。一年中青草が育つ気候とはいえ、草の生育量が減ってしまうこの時期は、青草のみで飼うというのはなかなか難しい部分があります。秋に播種した牧草も育ってきており、少しずつですが自給青草の量も増えてきているものの、自分たちで貯蔵飼料を作っていない分、冬季は最低限の量の購入乾草で賄っています。ビール粕の給与は今のところ行っておらず、草のみ給与となります。

## ・うちの牛たちが食べる草。

INAHO FARM では、牛の飼料用に品種改良されたいわゆる「牧草」だけでなく、やんばるの地に自生している野草が主体の放牧地で牛を飼っています。栄養価の数値だけで言うと牧草には敵わないのかもしれませんが、それでも使い物にならない邪魔な「雑草」ではなく、野草や木の葉はちゃんと牛たちのご飯になります。自生している草を食べた牛のミルクやお肉こそ、その土地ならではの味を表すテロワールになると考えています。先日放牧

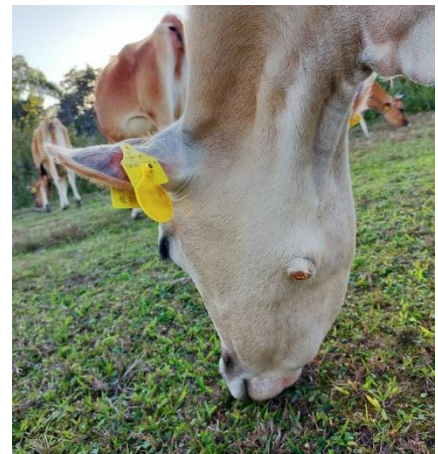


# INAHO FARM 通信 2025 年 1 月

したエリアには、ショウガ科でゲットウに似たクマタケランやアオノクマタケランがたくさんありますが、写真のように全てを食べるわけではなく、若芽の柔らかい葉っぱだけ選んで食べています。そのほかには、やんばるを象徴するような植物ヒカゲヘゴも牛の大好物。ギンネムの葉も食べます。このように一般には牛が食べる草として認識されていない様々な種類の草が牛の栄養になるのです。こんな発見があるのも楽しいですね。

## ・怪我をしたチッチに抗生剤を投与しました。

久々に抗生物質を投与しました。12 月頭に 3 回目のお産を無事に終えたチッチですが、この夏から左顎のあたりに硬いしこり様の出来物が発生していました。昨年もアユが同様の怪我をしていたのですが、おそらく草や枝などの硬い部分で口内を傷つけてしまったことが原因と思われました。特に体調に問題は見られなかったため治療することなく自然治癒を望んで経過観察していましたが、少し大きくなったしこりは、放牧地でどこかに引っ掛けたのでしょうか、皮膚表面が傷ついて膿が出てきていました。その朝はご飯も少し食べ辛そうにしており、また傷口から化膿がひどくなることを考慮し、獣医師と相談の上泣く泣く少量の抗生物質投与を行うことにしました。



普段からワクチンを始め予防としての薬は一切使用していませんが、このような怪我などで必要と判断した際には使用することもあります。ただ、今でも抗生物質は必要では無かったのではないか、これで良かったのかと自問を繰り返しています。投与に踏み切った理由としては、軽い怪我で使用することはないのですが、今回のしこりはだいぶ大きく成長してしまっていたので、傷口からの感染を防ぐためや、少しでもしこりが小さくなるのであればと思い判断しました。抗生物質は、投与後一定期間は乳や肉に残存する可能性があるため、休薬期間という出荷制限が設けられており、今回の場合だと乳として 96 時間、肉としては 90 日間の出荷制限となりました。そのため、4 日間はチッチのミルクは廃棄せざるを得ないということになり、そういった意味でもなるべく薬は投与したくないですね。十分に休薬期間を空けてから製造に使用していますので、ご安心下さい。このような法律のもとに投薬後の出荷は管理されておりますので、一般に流通している畜肉製品にも抗生物質が残存することはありません。

そして、関連して良く間違っ解釈されてしまいがちだと思うのですが、日本国内において肥育ホルモン剤の家畜への投与は一切認められておりません。国産の畜肉製品にホルモン剤が使われていないことは当たり前のことなのです。国内では認められていないのにも関わらず、肥育ホルモンの使用が認められている国からの輸入は（もちろん安全とされる残留基準を設けているとはしていますが）許可しているという少し変なことになっています。

## ・12/15 に牧場イベントを開催しました。

牧場では今年 6 月以来 2 回目となる食事会イベントを開催しました。今回は人数を少なめに制限し、よりお客様と深くコミュニケーションが取れるようにしました。幸い当日は天気にも恵まれ放牧地の ツアーも気持ちよく執り行うことができました。当牧場の取組や飼育に対する考え方などをお話させていただいた後に、角谷シェフによる牧場産ミルクと肉を使用した料理をたっぷりお召し上がりいただきました。今回は昼の部に大宜味村「しまたまご」さんから東さんにも同席頂き、その卵も使用されたお料理を味わいながら放し飼い養鶏についても話してもらうことができました。島の素材を使うことにこだわった「ぬちぐすい」を表現された角谷シェフの素敵なお料理の数々。参加された皆様も大満足だったことと思います。グラスフェッドミルクの風味を生かしたブランマンジェや、豚ラードの代わりに牛肉の脂を使って作られたちんすこうなど、この会だからこそ食べられる特別なメニューばかりでした。



日々の業務だけでも手一杯の中、このようにイベントを企画するのは簡単なことではありませんが、やはりこのような取り組みも通して我々の思いを伝え、また地域の方々と繋がりを持つことがとても大事なことだと思っており、今回も企画して良かったと思えるとても素敵な時間を過ごさせていただきました。

## ・1/26・27 に阪急うめだで行われるバレンタイン催事にて登壇します

大宜味村で県産カカオの栽培とチョコレート製造を手掛ける OKINAWA CACAO さんにお声掛けを頂き、大阪は阪急うめだで開催されるバレンタインのイベントにて、まさかのチョコレートとは関係のない酪農家が、放牧酪農のお話をさせていただくべくセミナーブースにて登壇させていただきます。OKINAWA CACAO さんとは、その取り組みや考え方に深く共感し、「ぜひ一緒にやんばるの食を盛り上げていきたい！」と思い現在カカオニブをカップアイスフレーバーに使用させていただいております。その川合代表から、2025 年のバレンタイン催事ではうちの放牧ミルクを柱に商品開発を進めていきたいと嬉しいお声を頂きました。阪急うめだの催事会場では、沖縄県産カカオや INAHO FARM のミルクを使用した限定商品をお買い求め頂けるとのことですので、ぜひお近くにお立ち寄りの際にはお求め下さい。

..

# INAHO FARM 通信 2025 年 1 月

## ・読谷村のまつだ商店さんで島アイスクリームと島ヨーグルトを販売開始しました！

中部以南でなかなか販路が拡げられておりませんでしたでしたが、初めて読谷村でお取り扱い頂けることになったのが、まつだ商店様です。まつだ商店は、2020 年に閉店した 1953 年創業の「スーパーまつだ」を、屋号を新たに 2023 年 7 月にリニューアルしたお店です。オーガニック系の商品など品揃えやスタッフさんの雰囲気もとても素敵で、来店するお客さんとのやり取りを見ていても地域に愛されているお店であることが良く伝わってきます。商品の営業に伺った際には、「わー嬉しい！」と快く引き受けて下さり、心を込めて作った商品を委託させていただく立場としてとても嬉しい気持ちになりました。こうして少しずつ地域との繋がりが広がっていくことが日々の活力となっています。

## ・グラスフェッドビーフのパック販売、まだ在庫あります。

交雑種 10 ヶ月齢仔牛肉と、ジャージー種 24 ヶ月齢未経産牛肉の 2 種類、残り少なくなってきましたが、煮込み用とスジの冷凍パック肉がございます。冬の温かい煮込み料理などにいかがでしょうか。ホームページのオンラインショップよりお求めいただけます。年明け以降もしばらくはパック肉での販売の予定は御座いませんので、この機会にぜひ完全放牧牛のお肉をお試しく下さい。

## ・今年は 2 年ぶりにアサグラの蜂蜜が採れました！

毎年この時期に開花し蜜が採れる、やんばるに自生しているアサグラ（和名：フカノキ）。他にない独特の風味で INAHO FARM では Bitter Honey として販売してきました。しかし 2023 年は 8 月の大きな台風の影響でほとんど開花が見られずに採蜜ができなかったため、2 年ぶりの採蜜となりました。とはいえ収穫量は多くないので限られた数量での販売にはなりますが、これから瓶詰めをして販売再開となりますので、ご案内まで今暫くお待ちください。

## ・1 月は梅の花も

沖縄の 1 月と言えば、全国で一番早い桜の開花時期。名護でも毎年 1 月最終週の土日にはさくら祭りが催されて、多くの人で賑わいます。そんな沖縄で実はあまり無いのが、梅の花が見られるスポット。ここ INAHO FARM のあるオーシッタイと言われる地区には、集落で管理している梅並木があり、1 月の開花の時期になるとこんな山奥にも関わらず毎年多くの花見客が訪れます。ぜひ、牧場のふれあい体験予約と合わせて梅の花見も楽しまれてはいかがでしょうか。

(文・佐藤貴之)